

「新しい東北」交流拡大モデル事業（復興庁総合政策班）

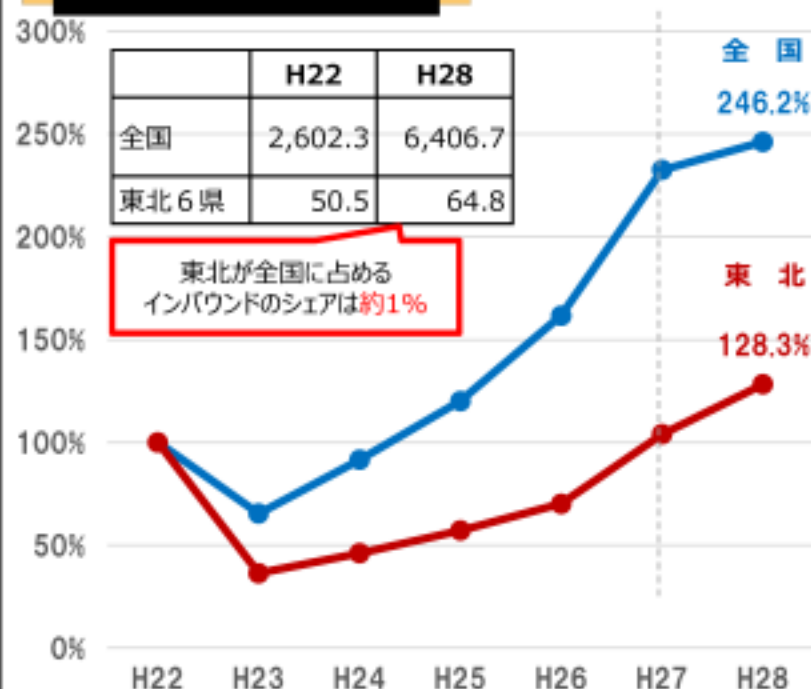
30年度予算案額 4.3億円【復興】
(29年度予算額 4.9億円)

事業概要・目的

→岩手復興局事業における青字箇所の具体的な内容は次ページ参照

- 東北は、インバウンドの全国的な急増の流れから、大幅に遅れている。
- しかしながら、本来市場によって供給されるべき、インバウンド向け商品・サービスの提供は、東北のインバウンドが少なく事業者ノウハウが不足していること、震災による風評被害の影響等により、民間ではリスクが高いとされ、外国人が消費可能な状態に置かれていない。→29年度事業で外国人向けの旅行商品を開発済み
- このため、東北のインバウンド向け商品・サービスの提供を国がモデル的に実施し、得られたノウハウを広く共有することで、民間による自走や新たな商品・サービスの誘発につなげる。→29年度事業で造成した旅行商品や磨き上げた観光コンテンツについて、30年度事業で更なるブラッシュアップを行うとともに、招請や海外旅行AGT等への売り込み等を実施し、自走させる仕組みを構築する

外国人宿泊者数の推移



事業イメージ・具体例

- 東北の外国人交流人口の拡大につながる持続可能なビジネスモデルを公募・選定
- 事業毎に成果目標を立て、事業終了時に報告会での成果報告を求めることで、事業間競争を促し成果を最大化
- 観光にとどまらない幅広い分野で連携し、東北の外国人交流人口の拡大に向けた課題に取り組む

期待される効果

- 持続的な交流人口拡大につながるビジネスモデルの確立
- 東北に訪れた外国人による体験に基づく情報の拡散
- 東北各地での外国人受入機運の醸成

根強い風評被害の払拭
外国人宿泊者数150万人泊の目標達成に貢献
地域の産業振興

平成30年度岩手復興局交流拡大モデル事業について

- 平成29年度は交流拡大版ハンズオン支援事業として、**岩手三陸連携会議**をはじめとした地域の観光・復興等関係者と連携し、外国人旅行者の誘客に成果を挙げるべく、沿岸部を中心に新たな観光コンテンツの開発や既存の観光コンテンツの磨き上げ、機運醸成や意識啓発等に取り組むとともに、**外国人旅行者向けの旅行商品の開発を行った。**
- 平成30年度は交流拡大モデル事業として実施を検討。引き続き地域の観光・復興等関係者と連携し、29年度のフォローアップを実施すると共に、**三陸沿岸道路等を活用した市町村連携や観光地域づくりに資する取り組みを進める予定。**

29年度成果内容		30年度実施内容	
旅行前 海外旅行AGTや商品造成担当者向けに、岩手の体験資源・素材提案シートを作成。商談会等で活用 体験資源・素材提案シートの内容等をもとに、旅行商品を作成 素材シートの観光資源のうち、優良なものについて、沿岸市町村は概ね2つつつ、内陸市町村は概ね1つつつ、岩手県民や受入事業者、旅行者向けにコンテンツ集を作成。今後、観光案内所等に据置予定	岩手県沿岸部を取り巻く状況 その他 ○インバウンドの全面的な急増 ○東北観光復興対策交付金の創設(28年度) ○三陸防災復興プロジェクト2019(31年度)	実施する事業のイメージ ○岩手県沿岸部の入込は日本人も含めると震災前の7割に満たない状況であるが、インバウンドについては徐々にではあるが<u>増えてきている</u>。 ○岩手復興局では平成29年度に沿岸12市町村全てにおいて「エリア検討会」をハンズオン形式で開催し、地域の「売りたいもの」と「売れるもの」について検討を行うとともに、旅行商品の造成等を行った。 ○平成30年度については前年度に造成した旅行商品や磨き上げた観光コンテンツを活用した「モデル事業」を実施し、招請や海外旅行会社等への売り込み等を実施する。 ○例えば、7月の岩手大学等主催の国際会議の海外からの参加者に対し、造成した旅行商品や磨き上げた観光コンテンツを体験してもらい、意見を集約する。 ○その内容を踏まえ、旅行商品や観光コンテンツの更なるブラッシュアップを行い、海外旅行会社等への売り込みを実施するとともに、地域にも結果を共有するなど、沿岸部を中心に引き続き機運醸成や意識啓発等に取り組む。 ○その他、成果目標や事業の詳細については企画提案の内容を基に決定する。	

旅行中